

中国語「请」、日本語「～てください」について

On Chinese "Qing" (请) and Japanese "～tekudasai" (～てください)

盧 万 才、植 田 均
LU Wancai, UEDA Hitoshi

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 0. はじめに | 2. 「～てください」について |
| 1. 「请」について | 2.1. 考察の目的 |
| 1.1. 考察の目的 | 2.2. 考察方法 |
| 1.2. 考察の方法 | 2.3. 「～てください」に関する先行研究の記述 |
| 1.3. 用例の分析 | 2.4. 「～てください」の使用条件 |
| 1.3.1. 「请」の使用と人間関係 | 2.4.1. 資料及び用例の説明 |
| 1.3.2. 「请」が使用される場面 | 2.4.2. 用例の分析 |
| 1.3.3. 「请」の発話内容 | 2.4.3. 用例のまとめ |
| 1.4. 小結 | 2.5. 中国語「请」と日本語「～てください」 |
- [注]、[例文の出典]、[参考文献]

0. はじめに

拙稿は、中国語の敬辞「请」を第1章で、そして、これに対応すると思われる日本語「～て下さい」を第2章で考察する。

1. 「请」について

1.1. 考察の目的

中国語の敬辞「请」は、動詞の前におき、聞き手にその動作・行為を勧めたり、希望したりする場合に丁寧な態度を表す働きがある。¹⁾ 中国語敬語表現の中でもとりわけ広く用いられている。例えば、次の例(1)、(2)はいずれも丁寧な感じを与える。

■<レストランでウエイトレスがお客にお茶を勧める場合>

(1) 请喝茶! (お茶をどうぞ!)²⁾

■<知人への手紙の場合>

(2) 如有困难, 请随时来信。(困ることがあれば、随時ご連絡ください)

一方、敬辞を使用しても、そこに現れる人間関係や、発話の場面及び話題となる事柄の性質などの要素に影響されることも多い。³⁾ 例えば、次の(3)、(4)、(5)の如き「请」の例は一般的とは言えない。

■<通常の生活における親しい友人同士の場合>

(3) *请喝茶!

■<友達同士の気楽な夕食会の席上にて>

(4) 大家都不是外人, (*请)不用客气, 来! (*请)干杯!

■<道で郵便局を尋ねる場合>

(5) * 请告诉我去邮局的路。

例(3)の場合、発話の設定から「请」は一般に不用である。同じく、次の例(4)も場の設定を考えれば「请」の使用は、堅苦しい感じを与えてしまう。例(5)は硬い命令口調の感じを与えてしまう。このケースは、「请」を使用しないで、むしろ「去邮局怎么走？」の方が自然である。

このように、「请」は丁寧に感じる場合もあれば、状況により、そうではない場合もある。更に、例(5)のようにマイナス効果になることもある。⁴⁾ 現在の中国社会において「请」の使用はどんな要素と関わっているか、その使用条件は如何なるものかについて実証的な考察はまだ見られていない。⁵⁾ コミュニケーションの多様化・国際化が絶えず進んでいる今日、言語の使用面の研究がますます重要視されている。このような中、中国語の敬語に関する研究も一つのテーマとして注目されている。⁶⁾ そこで、第1章では、現代中国語敬辞「请」の使用特徴を明らかにしたい。

1.2. 考察の方法

1980年代改革開放以降の中国社会生活を描いた文学作品の会話文に現れた「请」の使用例196条を集めた。⁷⁾ これを材料にして、「请」の使用とそれに関わる諸要素との関係を分析する。これにより、「请」の使用特徴を明らかにする。「请」は敬辞以外に動詞などの意味も有するが、拙文では敬辞としての働きを中心に考察する。なお、敬語の使用に影響を与える要素は様々あるが、拙文では主にその中の「人間関係」及び「発話の場面」、「発話内容の受益」の要素に着目して分析する。

1.3. 用例の分析

1.3.1. 「请」の使用と人間関係

まず、用例に見られる話し手と聞き手との関係を見たい。次の[表1]はそれぞれの聞き手及び用例数を示している。

[表1] 例文に見られる聞き手の種類及び用例数(頻度)

聞き手	部下	同僚	初対面の人	上司	複数相手	外国人	目上
用例数	45 (22%)	27 (13%)	25 (12%)	21 (11%)	19 (10%)	16 (8%)	12 (6%)
聞き手	妻	両親	客	夫	友人	囚人	息子
用例数	7 (4%)	7 (4%)	5 (3%)	4 (2%)	4 (2%)	3 (2%)	1 (1%)

[表1] から、「请」の使用と人間関係は、以下①~③のような特徴が見られる。

①地位の上下関係に関係なく使われる

地位の上下関係を明確にするために、聞き手を「部下、上司、同僚、目上」等に設定した([表1]の主として上段)。以下、個々に例で示す。

■<監獄の署長→監獄職員(上司→部下)>

(6) 既然你来找领导，有这么多领导在场，就请你把该说的都说清楚。《十面》⁸⁾

(幹部に会いに来たのなら、こんなに大勢の幹部がここにいるのだから、言いたいことをはっきり言ってください。)

■<司会→県政府主任(部下→上司)>

(7) 蒞苗主任给我们做指示!《平凡》

(苗主任には、我々にご指示をお願いします!)

■<監獄職員同士(同僚同士)>

(8) 我没骗你吧?好了,请马上回办公室,我确实有话要说。《十面》

(うそじゃなかっただろう。じゃあ、すぐに事務室に戻ってくださいよ。私は本当に言いたいことがあるのだから。)

■<集会参加の工具→市長(一般市民→首長)>

(9) 我们就要听市长的!李市长,请你站出来跟我们对话!《抉择》

(市長の話を聞きたいのです。李市長、出てきて私たちと対話をしてください!)

上記例(6)～(9)で示したように、「请」の使用による地位の上下関係は制限を受けない。しかも、「请」を用いると、いずれも丁寧に感じられる。

②親疎関係にも制限されない

親疎面を明確にするために聞き手を「妻や夫、両親、息子、友人、初対面の人、外国人、お客、囚人」に設定した([表1]の主として下段)。以下の例(10)～(13)を見よう。

■<夫→妻>

(10) 请你摸摸自己的后脑勺,想想你们才进城几天?土腥气掉了没有?还敢说我有农民意识!《来往》

(頭に手を当てて考えてほしいな。都会に来て何日も経っていないんじゃない?)

お前の方こそ田舎くさいにおいが失くなっているのかね?俺に農民意識があるなんてよく言えるなあ!)

■<父→息子>

(11) 这里是上海俊友汽车公司,我是总经理,你是操作工,这里没有老子和儿子。

你随随便便越级跑到我这里来,你违反了上海俊友的规定。请你出去!《汽车》

(ここは上海俊友自動車会社だ。ワシが社長で、お前は工具だ。ここに親子の間柄はない。お前が職階を越えて勝手にワシの所へ来るのは上海俊友の社員規則違反だ。出て行きなさい!)

■<合弁会社中国人管理職→ドイツ人技師>

(12) 斯泰尔先生,请你注意说话方式,我们中国人认为疯子的说法是对人的最大诬蔑和不尊重。《汽车》

(スタイル先生、話し方にご注意ください。我々中国人は気違いという言い方が人に対する最大の侮辱と不敬であると考えているのです。)

■<監獄の警官→囚人>

(13) 王国炎!请你放明白点,不要一直拿这些鸡毛蒜皮的事情来搪塞我们!自己做事自己当,你的问题其实我们早已掌握了,现在就只看你的态度怎么样!《十面》

(王国炎、自分の置かれた状況をよく考えなさい!いつまでもつまらない隠し立てをするんじゃない!自分がやったことは自分で引き受けるんだな!実を言うと君のやったことはすでに分かっているんだ。今は君の態度を見きわめているだけなんだぞ!)

例 (10) は夫婦げんかの一場面、例 (11) は仕事の場における親子の会話、例 (12) も仕事上の会話、例 (13) は囚人に対する尋問の場面である。このうち、例 (12) の合弁企業のドイツ人技師に対する「请」の使用は丁寧にも感じられる。しかし、妻や息子または囚人に対する「请」は丁寧表現とは考えにくい。なぜなら、それらは、話し手が場面に応じてある種の態度（例えば、「皮肉」、「厳粛な態度」等）を示すためのものでしかないからである。

③大人であれば、誰もが必要に応じて使いこなしている

収集した用例のうち、聞き手が未成年者や、子供である場合が一例もなかった。そこで、敬辞「请」は大人の社会にこそ適用するもので、大人同士において必要であれば、誰もが使いこなしているということが言えよう。

1.3.2. 「请」が使用される場面

「请」の使用と場面との関係に関しては、次の〔表2〕にまとめることができる。用例採集の基本は、文学作品中の会話文であるが、「手紙、メモ、ポケットベルなどの伝言」も含む。

〔表2〕 使用例の分類

場面	話し言葉の場合			書き言葉の場合 (手紙、メモ、 ポケットベル 等の伝言)
	公的な場面	私的な場面	電話の場合	
用例数	122(62%)	26(13%)	18 (9%)	30(16%)

〔表2〕で示す公的な場面とは、主に仕事での場面や公共での場面などを指す。私的な場面とは、個人的なことに関する会話を指す。書き言葉とは、手紙やメモ、ポケットベルなどによる伝言などを指す。電話の場合は、二人きりで話すことになるが、例文はほとんど仕事関係の会話であったので、事務的処理の性格が強い。1980年代の中国は、個人住宅での架設電話がほとんど普及していなかったことも関係すると考えられる。

また、〔表2〕から「公的な場面」の使用例が圧倒的に多いことが見てとれる。これは、「请」の作用は、聞き手への配慮よりも、周りへの配慮の方が大きいことを指す。つまり、「请」の使用は話し手と聞き手との関係よりも、話し手と聞き手を取り囲む環境の方と深く関係しているのである。

場面への配慮が大きいということは、書き言葉からも見てとれる。書き言葉における「请」の用例は30条もあったが、それは手紙の場合だけではなく、一時日本や中国等で流行っていたポケットベルの伝言やメモも含む。書き言葉は、話し言葉と違ってあとに残る性質があり、また、複数の人間に見られてしまう可能性もある。したがって、書き手がそれに配慮して、「请」をよく使ったのであろうと思われる。

1.3.3. 「请」の発話内容

発話内容とは、発話の動作・行為によって、話し手または聞き手のどちらが受益者になるかを問題にする。これには次の3つのケースが見られる。①話し手が受益者になる。②聞き手が受益者になる。③話し手と聞き手のどちらでもない第三者が受益者になる。

文学作品の用例を見た結果、使用数（使用頻度）は次の〔表3〕のとおりである。

[表3] 用例に見られる受益者及び用例数

受益者	話し手	聞き手	第三者
用例数	17(9%)	59(30%)	120(61%)

[表3] から、「请」の使用と受益者との関係は、以下①～③の特徴が言える。

①話し手が受益者になる場合、「请」の使用は少ない

話し手が受益者になる場合の例は、わずか9%しかなかった。拙文の初めに、敬辞「请」は動詞の前におき、聞き手に何らかの行為をさせる時に丁寧さを表す働きがあると述べた。[表3]の結果を見れば、「请」は、話し手自身が受益者になるようなケースに使いにくいことが伺える。[表3]にある17条の「请」は、実はそれ自体による丁寧さではなく、他の要素との組み合わせで使われたものと考えられる。次の2例を見よう。

■<詐欺師→見知らぬ婦人>

(14) 大姐，不好意思，打搅你了。你的身材和我姐姐的简直一模一样，我想给我姐姐买一套衣服料子，不知道扯多少布料合适，想请大姐帮一个忙好不好？《不要》

(お姉さま、すみません。あなたの体つきは姉と本当にそっくりです。姉に服の生地を買ってあげようと思っているのですが、どれぐらい必要か分からないのです。それで、お姉さまにちょっと手伝ってほしいのですが、よろしいでしょうか。)

■<旅館に泊まる客→隣の部屋の複数の若い人>

(15) 请你们小声一点行不行？我接连十几天没睡好觉了，照顾照顾。《京华》

(ちょっと静かにしてもらえないかな。僕は十何日間連続でよく眠れなかったんだ。少しばかり配慮してくださいよ。)

例(14)は依頼表現である。ここをもし単に「请大姐帮忙」のみにしたならば、初対面の相手に唐突の感じを持たせる可能性が高い。ここでは話し手がまず依頼の理由を説明した後、「想」という話し手の希望を表す要素と、「一个」という依頼の内容を軽く感じさせる要素と、「好不好？」という聞き手の意思を伺う要素の合計3つの要素を組み合わせ、**「想请大姐帮一个忙好不好？」**という丁寧な依頼表現を持ち出したのである。例(15)も、「一点」・「行不行？」・原因の説明・「照顾照顾」という一連の要素によって丁寧な依頼表現ができたのである。

以上、①は受益者が話し手自身になるケースである。このような場合、「请」は単独で使いにくく、ほかの要素との組み合わせで使うことが見られた。但し、その例も全体の9%しかなく、ごく少ない。

②受益者が第三者になると「请」の使用は最も多い

[表3]に見えるように、61%の用例数を占めるのは、受益者が第三者になる場合である。例えば、次の例である。

■<記者→政府の官僚>

(16) 我是省报记者。请允许我和你们一同前往灾区。《平凡》

(私は省から来た新聞社の記者です。あなた達と一緒に被害地へ行くことを許可して下さい。)

このように、発話に含まれた行為による受益者は話し手や聞き手を超えた段階にあることである。この種の用例は、仕事上の会話に多く現れた。<1.3.2.「请」が使用される場面>では、公的な場における用例がもっとも多いという結果になった。したがって、「请」の使用は仕事などの公的場面のような社会関係に深く関わっているといえる。

また、この場合、受益者は話し手ではない。したがって、話し手の心理的な負担が軽くなったのか、発話は単刀直入で、ストレートになることが多い。すなわち、他の要素を付加する必要がないのである。即ち、「一点」・「一下」・意思を伺う・「好不好？」などの要素が一般に付加されない。そして、発話は改まった感じを与えることが多い。例えば、次の状況下での例である。

■<工場の工具→デモ参加の大学生>

(17) 请你尊重我们的厂长！《抉择》（わが工場長を尊重するようお願いします！）

③受益者が聞き手になる場合、「请」はもっとも丁寧に感じられる

敬辞としての「请」は、聞き手にある行為の実行を希望する働きがある。よって、話し手は、聞き手に対して受益になるようなことを勧めると、益を与える側になる。したがって、聞き手にとってはその気持ちだけでもありがたい。さらに、動詞の前に「请」をおけば、更に丁寧な感じを与えることになる。次の例を見よう。

■<軍需工場の責任者→軍の上層指導者>

(18) 可以。有什么不可以的。首长请进去看看吧！《钳工》

（よろしいです。何もいけないことはありません。どうぞお入りになってご覧ください。）

■<市政府統計局局長→市長>

(19) 李市长……请您放心，经过我们竭尽全力的工作和努力，“新潮”的问题已经完全不必再有什么可担心的了。……调查报告上讲得很清楚，请您过目。……请您和吴局长随时来电话。《抉择》

（李市長、……ご安心ください。私たち精一杯の説得努力によって“新潮”の問題はもう心配することが完全になりました。……調査報告書には明確に書いてありますのでお目をお通しください。……李市長と奥さまの呉汚職撲滅局局長におかれましては、いつでもどうぞお電話をください。）

■<サービス業などでよく耳にする決まり文句のようなもの>

(20) 请坐！（どうぞ、おかけ下さい。）

(21) 请进！（どうぞ、お入り下さい。）

1. 4. 小結

以上の考察から、現代中国語敬辞「请」の特徴について以下の①～④にまとめることができる。

- ①「请」は、話し手と聞き手の上下関係・親疎関係及び身分などに制限されることなく、大人社会において必要に応じて誰に対しても使える敬辞である。
- ②「请」は、公的な場における使用が目立って多い。
- ③話し手が恩恵を受けるような発話では、「请」は単独で使いにくい。しかし、恩恵を与える立場になると、「请」は単独でもストレートに使い、しかも、丁寧な発話ができる。したがって、恩恵の授受は敬辞「请」の丁寧度に決定的な影響を与えることになる。
- ④「请」の敬語的機能は丁寧表現のみに現れるのではなく、発話の状況によって「皮肉、改まった態度、厳粛な態度」など特殊な効果を表現することもできる。

次に、「请」に相当すると思われる日本語「～てください」について、「请」と同様の手法で考察する。

2. 「～てください」について

中国語の「请」に相当する日本語は「～てください」だとされている。⁹⁾ これは「依頼、勧め、指示」等をあらわす。特に、中国語を母語とする留学生が、中国語の「请」に相当する日本語を「～てください」だと考え、機械的にこの語を使用するとどうなるだろうか。この結果、たいへん失礼な印象を相手に与えてしまうことも生じるのである。例えば「学部長に伝えて下さい」または「学部長にお伝え下さい」は、形式は丁寧であるが、意味的には「命令式」を免れない。やはり「学部長にお伝え願いませんか」、または「学部長にお伝えしていただけますか」にしなければならない。とりわけ、教師に対してなどの目上の人に対しての場合である。

2.1. 考察の目的

本考察は「～てください」の使用に関わる諸条件について調査する。これによって、中国語を母語とする日本語学習者に対する敬語教育のあり方を考える第一歩としたい。

2.2. 考察の方法

「～てください」の用例資料は映画『釣りバカ日誌』のシナリオを用いる。ここには、登場人物が豊富で、企業内外での会話やそれぞれの家庭内会話を反映させているので、格好の材料だと思われる。それに、この映画は、第22作までシリーズになったほどかなりヒットし、多くの人々に親しまれている。

このシナリオに見られる「～てください」の用例を収集する。そして、それぞれの用例はどのように使われたかを考察し、「～てください」の使用条件を分析する。

2.3. 「～てください」の機能に関する先行研究の記述

「～てください」の機能について、先行研究の記述は以下の①～⑤である。

- ①人に何かの行為を要求することを表わす。¹⁰⁾
- ②その動作をする人に丁寧に頼む。¹¹⁾
- ③相手に懇願する意を表わす。¹²⁾
- ④「依頼」と「命令・指示」という二つの基本的な機能と「勧め」、「激励」という二つの派生的な機能を持つ。¹³⁾
- ⑤丁寧に依頼、要求することを表わし、一般に中国語の「请～」に当たる。¹⁴⁾

以上①～⑤の先行研究の記述をまとめれば、次の通りである。

授受関係を表わす動詞「くれる」の尊敬語「くださる」の命令形が「ください」である。してみると、「～てください」の敬語的機能は、動作主体が恩恵を与える、または恩恵を受けることを表わすことになる。

しかし、「～てください」は丁寧形式であるが、必ずしもそのまま丁寧な表現になるとは限らない。例えば、学生が教師に向かって何か依頼をする場合、どのような表現が失礼にならないだろうか。

「先生、その辞書を取ってください」

と述べると、どうしても唐突な感じがする。つまり、敬語として使用したつもりが、実際にはそうになっていない。いくら丁寧形式にしても意味的には「命令式」になってしまうのである。

人間関係や、発話の場面及び発話の内容などさまざまな条件に影響されるからである。そのさまざまな条件を無視すると、敬語の形式を使っても敬語の機能を果たさないことになる。以下、「～てください」の使用条件についてシナリオを用いて考察する。

2.4. 「～てください」の使用条件

2.4.1. 資料及び用例の説明

『釣りバカ日誌』は、1979年から『ビッグコミック・オリジナル』（小学館）で連載されている漫画作品である。その後、アニメ化（日本での放送期間：2002年11月～2003年9月）及び映画化（日本での上映期間：1988年12月第1作～2009年12月第22作）された。拙稿で用いたのは『年鑑代表シナリオ'89』所収の脚本山田洋次、桃井章の映画シナリオ『釣りバカ日誌』である。¹⁵⁾ 映画のあらすじは以下の通り。

釣りが大好きな浜崎伝助は鈴木建設の社員である。ある日突然支社から本社へ転勤を命じられた。東京本社に來ても伝助はやはり釣りに夢中になっていた。ある日偶然年寄りの鈴木一之助と出会い、彼を釣りに誘った。こうして二人は釣りの師匠と弟子の関係になり、一緒に釣りに出かけたり、酒を飲んだりした。この結果、一之助は伝助夫婦と親しい仲になる。実は鈴木一之助は伝助が勤めている鈴木建設の社長である。初めて伝助と出会った時伝助に哀れな一介の老人に間違えられたので、しばらくは社長の肩書を秘密にしておこうと思い、その後も黙っていた。ある日会社に礼服を届けに來た伝助の妻みち子が偶然一之助と出くわした。それで、何度も自分のうちで飲食していた一之助が実は夫の会社社長であることが分かった。それ以来、伝助夫婦と一之助との間に職階という大きな溝ができてしまった。このため、伝助は一之助と一緒に釣りに行くことを断るようになる。そして、せっかく本社に転勤した伝助はまた支社に戻るようになった。

このシナリオには、次の〔表4〕に示した通り14条の用例「～てください」が見られた。下線は筆者。

〔表4〕『釣りバカ日誌』のシナリオに見られる「～てください」の例

番号	話し手	聞き手	例文
1	伝助	みち子	ちょっとその本見せて <u>ください</u> 。えーつイナダが釣れるのかよ。……イカも……イカなんて面白そうだなあ。
2	伝助	佐々木	課長、僕は空気のきれいな高松から來たんですよ。悪いけど東京の汚れた空気になれちゃった皆さんと一緒にしないで <u>ください</u> 。
3	伝助	久江	ええ、ええ、まかして <u>ください</u> 、じゃ。
4	伝助	一之助	俺もつらい、つらいですけどね、この付き合いは鈴木さんのためにならないから。ね、分かって <u>ください</u> 。
5	伝助	みち子	ぼくと結婚して <u>ください</u> 。
6	一之助	草森	小池常務に分析表を持ってくるように <u>言ってください</u> 。
7	一之助	草森	ほっと <u>いてください</u> 。昼飯くらい自分で食べます。
8	一之助	部下	もう結構です。下がって <u>ください</u> 。
9	一之助	伝助	練習熱心 <u>って言ってください</u> よ。
10	一之助	伝助	<u>見てください</u> 、ほら、やりました。
11	一之助	みち子	では、ご主人にくれぐれも宜しくおっしゃって <u>ください</u> 。
12	一之助	みち子	なんでしょう、 <u>言ってください</u> 。
13	一之助	みち子	さあ、座って <u>ください</u> 、奥さん。
14	一之助	みち子	(私は)鈴木建設の社長です。とにかく座って <u>ください</u> 。

各用例の発話状況は、以下の通りである。

例1は、夫婦の会話であるが、ここで、夫が妻に丁寧な発話するというより、夫婦間の冗談交じりで仲が良いことを示すものと考えられる。その証拠として、この夫婦の間に「何か持ってきてやれよ。」の如きぞんざいな命令表現も随所に見られるからである。

例2は、上司に向かった発話である。しかも、オフィスという仕事の場で、大勢の同僚の前でもあるから、上下

関係と発話の場面の要素が働いたと思われる。なお、「禁止」表現に限り「～ないでください」形になるので、やや特殊である。

例3は、酔っぱらった一之助を自分の家に泊まらせるため一之助の奥さんに電話で知らせる発話である。会ったこともない人（一之助の妻）に丁寧に言うのは親疎の要素が働いている。

例4は、自分の弟子が実は自分の会社の社長であることが判明した話し手は、今までおこなっていただけた言い方をやめた。そして、あらたまった態度を取ることにしたのである。ここでは、上下関係と心理的な親疎の要素が働く。

例5は、プロポーズなので当然あらたまった態度を取る。

例6は、社長が秘書に対する会話で、丁寧に言う必要はないが、この発話は仕事の場という配慮からかもしれない。

例7と例8は、いずれも仕事の場への配慮である。

例9と例10は、弟子が師匠に対する丁寧な発話である。立場の強弱が働いている。

例11と例12は、弟子が師匠の妻に対する発話であるから、立場の強弱と男女という性差の要素が働く。

例13と例14は、話し手は社長であり、聞き手はその会社に勤務する従業員の妻である。地位から言えば、話し手が上であるが、かつて聞き手に親切に招待・介抱されたこともある。しかも、社長室というあらたまった場（個人の自宅ではない）でもあるから、社長は相変わず丁寧に発話をしたのである。

[表4] の14条における話し手と聞き手の身分及び発話に関わる諸要素を次の[表5] に示した。

[表5] [表4] に示された用例の発話の状況¹⁶⁾

番号	話し手と聞き手の身分	地位の上下	年齢の上下	親疎関係	心理的立場	性別	発話場面	受益側	発話の機能
1	夫→妻	対等	上→下	親	弱	男→女	家庭内	話し手	依頼
2	社員→課長	下→上	下→上	親	弱	男→男	オフィス	話し手	禁止
3	会社員→友人の妻	対等	下→上	疎	強	男→女	電話の会話	聞き手	指示 ¹⁷⁾
4	社員→社長	下→上	下→上	疎	強	男→男	電話の会話	聞き手	依頼
5	会社員→会社員	対等	上→下	親	弱	男→女	デート中	話し手	依頼
6	社長→秘書室長	上→下	上→下	親	強	男→男	社長室	話し手	指示
7	社長→秘書室長	上→下	上→下	親	強	男→男	社長室	話し手	指示
8	社長→部下	上→下	上→下	親	弱	男→女	社長室	聞き手	指示
9	社長→釣の師匠	下→上	上→下	親	弱	男→男	釣り場	話し手	依頼
10	社長→釣の師匠	下→上	上→下	親	弱	男→男	釣り場	聞き手	指示
11	社長→師匠の妻	対等	上→下	親	弱	男→女	道端	話し手	依頼
12	社長→師匠の妻	対等	上→下	親	弱	男→女	道端	聞き手	指示
13	社長→社員の妻	上→下	上→下	親	弱	男→女	社長室	聞き手	勧め
14	社長→社員の妻	上→下	上→下	親	弱	男→女	社長室	聞き手	勧め

* 表の中の「→」の左側は話し手を、右側は聞き手を表わす。

2.4.2. 用例の分析

「～てください」は、意味的には「命令」という大枠に入るが、一般に次に示す①～③の用法が存在する。¹⁸⁾

なお、以下の例は典型的なものであり、分かりやすい。この点はシナリオとは異なる。

① [依頼]：人に依頼する場合。

<一般に「すみませんが」の如き要素が前置される>

例) すみませんが、もう一度言ってください。¹⁹⁾

すみません、コピーのとり方を教えてください。

② [勧め]：相手にとって有益なことを勧める場合。

＜一般に「どうぞ」、「ぜひ」の如き要素が前置される＞

例) どうぞゆっくり休んでください。

ぜひ一度遊びに来て下さい。

③ [指示]：軽く指示を出す場合。

例) ここに名前を書いてください。

このまままっすぐ行ってください。

以上を整理すると、以下の1)～3)になる。

1)「依頼」：一般に話者（自分）が「受益者」になる。「すみません」等の要素の前置可。

2)「勧め」：一般に聞き手（相手）が「受益者」になる。「どうぞ」等の要素の前置可。

3)「指示」：一般に聞き手（相手）が「受益者」になる。話者の方がやや上の関係。

以上、1)～3)を基本として、[表4]に示した用例及び発話の状況を踏まえて「～てください」の使用条件を考察した。この結果、[表5]に示した発話の状況になった。これは、話し手と聞き手の人間関係、発話場面、発話による受益関係などのことを指す。

シナリオにおける14条の発話の話し手と聞き手の関係を見ると、地位の上下では「下→上」「上→下」「対等」という3種類全部の関係が見られる。したがって、「～てください」の使用は単に地位の上下の制限を受けないと思われる。また、親疎関係において、「親」と「疎」の関係はともに使用されるから、一概に親疎関係にも影響されない。そのほかに、心理的立場、性別、発話場面、発話による受益側などにも、それぞれ使用例が見られるから、一概に決定的な使用条件を決めることはできない。そのため、それぞれの発話がいかなるもとで行われたのか具体的に分析する必要がある。

2.4.3. 用例のまとめ

以上の用例に見られる諸要素をまとめれば、「～てください」の使用条件の特徴は、次の3点になる。

①年齢の上下より地位の上下が優先される

伝助は釣の弟子一之助より年が遥かに若い、師匠という地位から彼はいつも「そんなもの、俺に見せるな！」というような乱暴な言い方をしていた。しかし、いつも叱っている弟子は自分の社長であることが分かったとたん、話し方も「俺もつらい、つらいですけどね、この付き合いは鈴さん^{スー}のためにならないから。ね、分かってください。」の如く、丁寧語の用法に変化している。

②地位の上下関係よりも発話の場面が優先的に配慮される

上述したように、例6～例8は、いずれも社長が部下に向かって発話している。本来は目上から目下に丁寧に言う必要がないのに、仕事の場（会社では、自宅内会話ではなく、他人の目が存在する）という環境を配慮して丁寧な言い方をしたといえる。なぜならば、同じ話し手と聞き手の別の会話を見れば分かる。社長の一之助が秘書草森の部屋に電話で話す時は「草森君、ちょっときてくれ。」というぞんざいな発話があった。この場合も会社内であるが、電話という手段で対一の完全に閉ざされた中での会話になる。したがって、仕事の場という要素が効かず、上下関係が働くことになったのであろうと思われる。

③地位の上下関係よりも立場の強弱が優先される

例9～例12に示されるように、一之助は社長の身分が明らかになる前から伝助やみち子に「～てください」

を用いていた。しかし、社長の身分が明らかになった後、通常なら社長の身分に戻って発話してもおかしくないように思われるが、今度はかえって「～てください」よりもっと丁寧な発話が見られた。例えば、以下の2例である。下線は筆者。

<一之助→伝助>

「あのう、未練がましいようですが公私の別をつけて付き合っていただくわけにはいきませんか？」

<一之助→みち子>

「奥さん、ちょっと来て頂けませんか。」

上記第1例は、話し手がどうしても今後とも引き続き師匠と仰いで付き合っていきたいと思い、懇願をしたのである。

上記第2例は、それまで自分の身分（社長）を隠していた話し手が、聞き手に社長室に来てもらって説明を聞いてほしいと願う。しかし、かなり弱い立場に立つことから「～てください」よりもさらに丁寧な依頼表現をしたのである。

上記「年齢」や「地位」は客観的上下関係で、目に見える性質がある。しかし、「立場の強弱」は内面的側面があり、目に見えにくいものである。この「目に見えにくいもの」が大きく作用している。

2.5. 中国語「请」と日本語「～てください」

中国語を母語とする日本語学習者が「～てください」形を学ばさい、陥りやすい落とし穴がある。それは、中国語の「请」が敬辞であるゆえ、これに対応する日本語を「～てください」だと思い込み、単純にこの語を使用してしまうことである。

「～てください」は丁寧形であるが、使う場によっては失礼になる。この理由は、「～てください」の底流に前提として次の(1)～(3)の発話条件が存在するからである。

- (1) 「目上・同等の者から同等・目下の者へ」
- (2) 「地位の上・同等にある者から同等・下の者へ」
- (3) 「心理的立場が強い者から弱い者へ」用いる。

この(1)～(3)のうち、どれか1つでも条件が合致すれば失礼に当たることはない。

上記の点から「请」＝「～てください」の構図は完全には成立しない。

【注】

- 1) 輿水 1977: 271-300。なお、「V+てください」のVは、動詞句も含む。
- 2) 用例の通し番号、下線及び和訳は筆者。以下、同じ。
- 3) 南 1987: 91-128。
- 4) 「请」を用いるとマイナス効果が働くこともある。これと同様に、中国人留学生が敬語を用いるべきだと考え、頭の中で「请」の使用を単純に日本語「～てください」に翻訳した結果、たいへん失礼なことになるケースも出てくる。これは、母語からの影響によるもので、「请」の根本的問題をも孕んでいる。この問題については、拙稿<2. 「～てください」について>を参照。
- 5) 木村 1987: 58-66、李 1995 は日中対照の立場から依頼表現における中国語の「请」と日本語の「～てください」との対応関係を述べている。盧 1999: 1-20、盧 2001: 25-35 も依頼表現としての「请」の使用について言及している。

- 6) 彭 2000 が代表的な研究として知られている。
- 7) 手紙などの書き言葉をも含む。
- 8) 拙文第 1 章における例文の出典は、以下に示す通りである。拙文中では、すべて略称を用いた。
- | | |
|-------------------|--------------|
| 《十面》→《十面埋伏》張平 | 作家出版社、1999 |
| 《平凡》→《平凡的世界》路遥 | 人民文学出版社、1988 |
| 《抉择》→《抉择》張平 | 群衆出版社、2000 |
| 《来往》→《来来往往》池莉 | 海人民出版社、1998 |
| 《汽车》→《汽车城》殷慧芬 | 文芸出版社、2000 |
| 《不要》→《不要与陌生人说话》池莉 | 作家出版社、1987 |
| 《钳工》→《钳工王》梁晓声 | 四川出版社、1997 |
| 《京华》→《京华见闻录》梁晓声 | 文化艺术出版社、1989 |
- 9) 例えば、友松・他 2007 : 176、光村図書出版株式会社の中国語版（教科書）1996 : 225 に「～てください」に対応する中国語を「请」としている。
- 10) 王 1999。
- 11) 梅棹 1989 : 602。
- 12) 新村 1998。
- 13) 柏崎 1993。
- 14) 光村図書出版株式会社の中国語版（教科書）1996 : 225（原文は中国語）。
- 15) やまさき十三、北見けんいち 1990。
- 16) 社会的立場（地位）や年齢、性別などは客観的判別ができる。今、客観的判別ができにくい「心理的立場」を導入した。これは、「恩義を与えた人の発話は心理的に＜強＞で、恩義を受けた人は心理的に＜弱＞であることに基づく」を前提としている。
- 17) 「～てください」の意味が「指示」、「勧め」、「依頼」のどれになるのか。奈良産業大学・留学生日本語教育担当の教員は、教壇でどのように説明されているのかご教示をお願いした。回答のあった 3 名（中川、川岡、能登、上野山の各講師）は「指示」と「勧め」に分かれた。中川婦美子講師からのご教示「『措置』（～ておく）に対する『指示』と捉える」が妥当と思われる。
- 18) 「～てください」の意味については、日本の日本語教育現場でよく用いる以下の資料を参考にした。
- ・スリーエーネットワーク 2008, 『みんなの日本語教師用指導書』第 14 課。
 - ・友松・他 2007, 『どんな時どう使う日本語表現文法辞典』（「～てください」の項）
- 19) 用例及び用例の下線は筆者。

【参考文献】

- 木村英樹 1987, 「依頼表現の日中対照」, 『日本語学』6 - 10 所収、明治書院。
- 輿水優 1977, 「中国語における敬語」, 『岩波講座・日本語・4・敬語』所収、岩波書店。
- 彭国躍 2000, 『近代中国語の敬語システム—「陰陽」文化認知モデル—』, 白帝社。
- 南不二男 1987, 『敬語』, 岩波書店。
- 盧万才 1999, 「中国語における表現形式と丁寧度の相関関係—命令・依頼表現に関して—」, 『麗澤大学大学院言語

教育研究科年報』創刊号, pp.1-20。

盧万才 2001, 「中国語の依頼表現と対人関係」, 『麗澤学際ジャーナル』第9巻第2号, pp.25-35。

友松悦子、宮本淳、和栗雅子 2007, 『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』, アルク。

やまさき十三、北見けんいち, 1990, 『釣りバカ日誌』, シナリオ作家協会編『年鑑代表シナリオ集'89』所収, 映人社。

王志国 1999, 『現代日語実用語法教程』, 中国人民大学出版社。

梅棹忠夫・他 1989, 『日本語大辞典』, 講談社。

柏崎雅世 1993, 『日本語における行為指示型表現の機能』, くろしお出版。

人民教育出版社・光村図書出版株式会社 1996, 『中日交流標準日本語初級上』, 人民教育出版社。

新村出編 1998, 『広辞苑』(第5版), 岩波書店(初版1955年刊)。

由木美帆 2001, 「〈～てください〉について—日本語教育の視点から—」, 『2001年度日本語教育学会研究集会予稿集』第9回。

スリーエーネットワーク編 2008年, 『みんなの日本語教師用指導書』, スリーエーネットワーク(初版2001年)。

李萍 1995, 「日本語の〈～てください〉と〈お～ください〉に対応する中国語の〈請～〉の意味と構文の特徴」, 『広島大学教育学部紀要』第二部第44号。

李萍 1997, 「日本語の〈～て(くれ・ください)〉に対応する中国語の文の特徴—〈請～〉以外の文を中心に—」, 『世界の日本語教育』7号, 国際交流基金発行, 凡人社発売。

植田均 2011, 「ビジネスマナーとしての日本語—中国語との比較から—」, 『奈良産業大学紀要』, 第27集。